

令和6年度 学校運営自己評価結果・学校関係者評価委員意見及び今後の課題

項目	自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見 今後の課題と取り組み
① 学校経営	<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、組織ミッション、組織目標を意識した上で、自身の役割や求められる行動を考え目標管理を行った。また、強化して取り組む課題におけた単年度目標も設定、中間評価しながら取り組んだ。 ・教務会議や定時情報共有の際に、教授活動に関する検討や意見交換、学生状況の共有や対応について協議し、日々発生する問題に組織として取り組んだ。 ・学生による授業評価や学校評価、教員による学校運営自己評価に取り組み、学校関係者評価委員の意見、今後の課題と取り組みとともにホームページで公表した。 ・令和6年度は新カリキュラム移行3年目であった。3年次に教授する科目「社会福祉Ⅱ」、「看護の統合と実践」について検討した演習計画等を実践しふり返った。演習時の学生の様子や学習の成果物から学習効果がうかがえた一方、統合試験において学生をどう動機づけるのか等の改善点も明らかになった。 ・令和6年度は新しいカリキュラムを履修した学生が卒業した。カリキュラム評価指標のひとつになると考え、卒業直前に「卒業生の特性」、「社会人基礎力」について自己評価してもらい、在学年間をとおした自己の成長や今の課題についてふり返る機会とした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教員が組織運営の視点をもって任務にあたり、自己評価に反映するよう努力する。 ・会議以外のあらゆる場面において、教員同士のコミュニケーションを密にしてい。それが、よりよいクラス運営、教授力等に繋がり学校経営の質が高まっていく。 ・授業の改善点を明確にし、年間をとおして戦略的・計画的に取り組み、教育目標の達成を目指す。 ・卒業生の自己評価結果は学校評価そのものである、新たに実施されたことはよかった。来年度以降も継続し、5年くらいは経時的変化をみて検討するとよい。 ・卒業生の自己評価結果を活かし教育方法の工夫や内容充実にも努めていただきたい。 ・卒業生による自己評価の分析をとおして運用したカリキュラムを評価していく必要がある。
② 教育課程・教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような学生を迎え入れ（入学者受け入れ方針）、どのような教育を展開し（教育課程編成・実施方針）、どのような能力を身につけて卒業させるか（卒業認定・専門士称号授与方針）という連の教育方針を明確に定め、履修概要や学校ホームページ上で公表した。 ・新しいカリキュラムを履修した学生に、卒業直前に自己評価してもらった。結果はやや高い傾向があるものの、目標達成におけ自己の成長を実感しながら努力した学生の姿がみえた。倫理・責任感や患者尊重の姿勢といった人間性に関する側面に関する教育の成果がうかがえた一方で、専門的知識の統合と臨床判断力が課題であり、今後の教育改善の重点となることもわかった。学生は、知識・技術への不安、精神面の弱さ、学習習慣や生活管理の不十分さといった課題を多く挙げていた。 ・上記の教育方針及び社会人基礎力について入学生に説明し、自己の成長を意識しながら学校生活・学習活動に取り組めるよう方向づけた。各学年、自分たちでクラス目標を設定した。 ・令和6年度も実務経験のある専門職の講義や地域で生活している人々を支援している場での臨地実習を設定し、学習環境を整えた。専任教員間での連携・情報共有を図り、大きな支障なくカリキュラムを運用した。 ・新科目「看護の統合と実践」（3年次）の統合演習・統合試験について検討した。授業を進めながらの検討となり、目標周知や年間をとおした授業・評価計画の提示、動機づけ等、学生への働きかけについて課題が残った。全ての教員が協働し統合試験を実施した。学生のふりかえりは、よく記載できており、手応えも感じた。卒業生から「（就業後）新人研修で役立った」という声もあがった。 ・社会福祉Ⅱ等、他科目でも協働学習、グループ討議といった学生が主体となって取り組むアクティブラーニングや演習シミュレーション、ルーブリック評価を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・解剖生理学や病態治療学等を統合したアセスメントや科学的根拠に基づく論理的判断、看護過程を循環させた看護の展開について、演習や臨地実習で強化する必要がある。 ・病院等実習施設と学校との連携が大事であり、実習での経験をその後の学習に活かしていくことが重要である。 ・（卒業生自己評価について）「科学的思考および臨床判断に基づいた看護実践」が低かったといっても、学生自身の正直な気持ちであり、過信してないということで今後の成長が期待できる。 ・臨床で求められる自ら判断し、行動する力を高めるため、実践的な取り組みの機会をつくっていき。それらが、学生の不安軽減、モチベーションに繋がっていく。 ・カリキュラムについては、学生の自己評価だけでなく、教員による効果検証も必要である。 ・効果的な授業運営（内容の検討や方法の工夫）については、従来どおり取り組んでいく。

項目	自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見 今後の課題と取り組み																																
②教育課程・教育活動	<p>・多くの学生が順調に学習を進め、単位を修得した。一方、単位修得ができなかった、修得が難しい学生への対応は、学生個々の状況も分析しながら専任教員間で情報共有・意見交換した。学校は説明責任を果たすと同時に必要な情報を提供した。</p> <p>・臨地実習（病院）では、実習前後の会議において学生の学びや課題、次年度にむけての修正点等を協議した。実習中に発生した諸課題は、臨地と共有し解決への方策を考えた。病院以外の実習においても、専任教員と実習指導者との協働体制はできている。</p> <p>・臨地実習評価については、実習指導者のみならず学内でも協議し、評価結果に疑義や誤解が生じないように、必要時には学生に評価の視点を提示しながら丁寧に説明している。</p>	<p>・成績不振、遅刻欠席が多い、健康問題を抱える学生等、個々の状況を判断しながら支援する。学生本人の思いを大切にしながら保護者と連携し、支援の方向性については組織で協議し最善の対応が図れるよう尽力する。</p> <p>・教育の質を落とすことなく、専任教員一同努力を継続する。良質な教育は、学生との信頼関係が土台にあることを意識して教授活動を展開していきたい。</p>																																
③入学・卒業対策	<p>・令和7年度入学生（令和6年度入試実施）は27名・定員充足率67.5%で充足率100%という目標を達成することができなかった。出願者数・受験者数が年々減少している状況である。</p> <p>・高等学校の進路担当教員によると「看護師志願者は減っていないが、大学進学希望者が増えている」とのこと。18歳人口が減る中、生徒、保護者の大学志向が強くなっており、専門学校を選択する生徒の増加を見込むことが難しくなっている。</p> <p>“高等教育の修学支援新制度”と“鳥取県看護職員修学資金”の併用等、経済面での支援制度が整備されたことも大学進学を後押ししていると考える。</p> <p>・県中西部地区の高等学校への訪問、進学ガイダンスでのPRを増やした他、県政だよりや日本海新聞に入試情報を掲載したが、受験者増加につながっていない。</p> <p>【入学者数等の年次推移】</p> <table><tr><th>年度</th><th>受験者数</th><th>入学者数</th></tr><tr><td>R4実施</td><td>82</td><td>40</td></tr><tr><td>R5実施</td><td>63</td><td>33</td></tr><tr><td>R6実施</td><td>55</td><td>27</td></tr></table> <p>【オープンキャンパス参加者数】＊R4・5年度はWEB開催 R4:81人 R5:36人（学校見学25人） R6:67人（学校見学3人） 卒業生の活躍についても紹介した。終了後アンケート結果から好評であったことがうかがえた。</p> <p>【看護師国家試験合格状況の年次推移】</p> <table><tr><th>年度</th><th>受験者数</th><th>合格者数</th><th>合格率</th><th>全国合格率</th></tr><tr><td>R4実施</td><td>33</td><td>33</td><td>100</td><td>90.8</td></tr><tr><td>R5実施</td><td>40</td><td>37</td><td>92.5</td><td>87.8</td></tr><tr><td>R6実施</td><td>38</td><td>38</td><td>100</td><td>90.1</td></tr></table> <p>・昨年度、学生に好評で効果も上げた専任教員による領域別対策を継続した。医師による補強講義も、全ての臨地実習が終了し学生の学習スパートがかかる12月から計画した。</p> <p>・模試結果が芳しくない学生には、学習方法の助言や弱点を強化するよう模試の解きなおし等の課題を提示した。また、各教員が看護師国家試験WEBで授業後の宿題を提示し、低学年から国家試験過去問題に取り組んだ。</p>	年度	受験者数	入学者数	R4実施	82	40	R5実施	63	33	R6実施	55	27	年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率	R4実施	33	33	100	90.8	R5実施	40	37	92.5	87.8	R6実施	38	38	100	90.1	<p>・今後も18歳人口は減少する。社会人受入れに着目していくことも必要である。</p> <p>・兵庫県北部の高等学校からの入学者勧誘に力を入れてみてはどうか。積極的にPRしてほしい。</p> <p>・大学との違いや専門学校のよいところ、少人数指導により細やかな指導ができることなど強みを伝えていくとよいのではないかな。</p> <p>特色ある学校づくりに腐心していただきたい。</p> <p>・ただ定員確保だけでなく、卒業できるよう支援する必要がある。</p> <p>・入試制度の検討も必要な時期にきている。引き続き、県中西部地区高等学校への訪問、進学ガイダンスでのPRに取り組み、本校の認知度を上げていきたい。</p> <p>・機会があれば、メディアへの露出増加を図る。</p> <p>・オープンキャンパスは、今後も参加者の意見を反映し、高等学校での三者懇談（7月）までに開催することとする。</p> <p>・従来の国家試験対策を継続、低学年から学習への動機づけを図る。スマートフォンで容易に国家試験過去問題にアクセスできるWEBシステムを活用していく他、実習指導を充実させていきたい。</p>
年度	受験者数	入学者数																																
R4実施	82	40																																
R5実施	63	33																																
R6実施	55	27																																
年度	受験者数	合格者数	合格率	全国合格率																														
R4実施	33	33	100	90.8																														
R5実施	40	37	92.5	87.8																														
R6実施	38	38	100	90.1																														

項目	自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見 今後の課題と取り組み
③ 入学・卒業対策	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生県内就職率は97.0%(前年度96.9%)だった。県内医療機関の採用情報については、図書室の就職コーナーに配架するだけでなく、校内に掲示し3年以外の学年にも情報提供している。 ・県内医療機関の就職ガイダンスやサマーセミナーに低学年から参加することを促した他、就職支援として特別講義やハローワークとの連携を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県内就職率の高さは保護者へのPRになる。 ・県内医療機関の採用情報を積極的に学生に伝えていく。県内中山間地域の医療機関への就職も提案する。
④ 学生生活への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス担当を中心に教員は、日常のあらゆる場面や定期面談での対話等から、学生の学習や学校生活の実情・思い・悩みを捉え、心理面や個別の状況に応じた支援を展開した。学習への取り組みが十分でない・生活が整わない学生には繰り返し声をかけ、授業の履修に繋がった。 ・学生の状況に応じて保護者と連携した。学生本人の思いだけでなく保護者の思いにも寄り添い対応した。支援の方向性について組織で協議、対応の体制も整えた。 ・スクールカウンセリングの体制を整え、学生に利用を促した。スクールカウンセラーの特別講義も設定した。 ・就職・進学支援では、定期的に進路意向を把握し、一斉指導・面談をとおして助言したり、学生の相談に対応した(③入学・卒業対策参照)。 ・経済的理由で学業を断念することがないよう日本学生支援機構奨学金や鳥取県看護職員修学資金について学生に周知し支援した。要件を満たす学生については、授業料減免の手続きも進めた。 ・保護者会(出席者36名、うち個人懇談希望者13名)で学校生活や学習の様子を保護者に伝えた。保護者からは、実習時のパソコン使用や助産師資格の取得について意見や質問が出された。保護者から寄せられる意見については、訴えをよく聴きとり、理解・納得できるよう説明責任を果たした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生が下級生に助言や指導する、そういう授業や機会があってもよい。卒業生が、国試にむかう後輩に話をしたり、学生同士のつながりがあると心強い。 ・メンタルサポートやストレスコントロールへの対応が求められており、今後も学生、保護者の思いや希望に寄り添った支援を展開していく。 ・組織内での情報共有や協議等の体制を継続する。教員の一貫した対応が課題であり、学生対応を教員間で統一できるよう連携していく。 ・教員一丸となって支援されている。 ・課題解決の視点を持ち、サークル活動の現状や学校への要望を日々のコミュニケーションから把握する。 ・奨学金に関する新しい制度を確実に学生に提供できるようにする。 ・卒業生の支援について卒業前に周知していく。
⑤ 管理運営・財政	<ul style="list-style-type: none"> ・機器の修繕等想定外の支出もあったが、計画的に予算執行し運営できた。9月補正予算(医療介護総合確保基金)において教材備品(看護実習モデル)を整備した。また、授業料や受験料等収入に関する事務も遅滞なく行った。 ・学校で扱う全ての個人情報について、誤配布・誤送信等のリスクを職員に周知し、業務適正化の徹底を図った。トリプルチェックやチェックリストを活用して情報漏洩の未然防止策を実行した。 ・令和5年度に返却済み実習記録の管理方法を改善して以降、問題なく運用できている。また、実習施設で学生がタブレットを使用(電子テキスト閲覧)することに関してルール作成し臨地実習要項に掲載した。個人情報の取り扱いについては機会あるごとに学生に指導している。 ・個人情報保護方針・個人情報保護取扱規程については制定以降、一度も見直しができていない。 ・コロナ禍以降、オンラインでの学会や研修が増加、県外での直接参加は少なかったが、教員それぞれのワークライフバランスに合わせ自己研鑽できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に管理運営されている。 ・県立学校の強みを活かして、今後も県内の看護を支える人材の育成に努められるよう期待している。 ・定員割れや高等教育の修学支援制度にかかる授業料減免の学生が増加しているが、適正な学校経営のため必要な予算を要求していく。 ・引き続き、個人情報や財務、公文書の管理について業務適正化を図る。 ・個人情報保護方針・個人情報保護取扱規程を令和7年度中に改正する。

項目	自己評価まとめ	学校関係者評価委員意見 今後の課題と取り組み
⑥ 施設設備	<p>・安全な施設利用・施設維持のため、定期的に職場巡視を行った。築50年になる校舎については、毎年何かしらの修繕を要しており、今後も県営繕課・隣接する養護学校と連携していく。電気・機械設備点検で指摘された看護実習室の流し台排水管の漏水について継続して留意した。</p> <p>令和6年度実施: (改修)外壁・建具改修工事 (修繕)ガスヒートポンプエアコン、ブラインド、パソコン 通年、雨漏りへの対応に苦慮していたが、外壁改修工事により問題が解消した。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染防止策である分散昼食をとりやめた。学生がいつでも看護技術の練習ができるようシミュレーション室を再整備した。臨地実習前・中にシミュレーション室で練習している学生もみられ、利便性がよかった。</p> <p>・カリキュラム改正で新しく設定した授業(科目「看護の統合と実践」等)に対応できるよう令和6年度は万能型看護実習モデルを2体整備した。このことにより、多くの看護技術のシミュレーションが可能となり、学生の技術習得に繋がった。</p> <p>・蔵書図書:5096冊、専門雑誌:21種類(年度末時点)</p>	<p>・令和7年度営繕工事予定 ▽ 建具改修工事 ▽ 空調設備更新工事</p> <p>・計画的に修繕・更新され、安全で学習しやすい環境整備に努められている。引き続き、老朽化した設備に留意が必要である。</p> <p>・学生ロッカーやカーテン等施設設備品が古くなっている。更新計画を立てていく。</p> <p>・安全で学習しやすい環境や図書、教材を学生に提供できるよう予算を効果的に運用していく。</p> <p>・新刊図書の購入等、学校後援会と連携し学生の学習環境を整備する。</p>
⑦ 教職員の育成	<p>・職位や経験年数に応じた期待される役割や水準を意識し、教員それぞれが目標設定しふりかえりながら行動した。新しい業務への取り組みや研修への参加、自己研鑽をととして教員として必要な力を養った。</p> <p>・人材育成体制を整え、育成担当を配置し戦略的・意図的に新任教員に関わった。教育活動を進める過程で発生した疑問や困りごとには、担当以外の教員も指導にあたった。</p> <p>・教育内容や学生対応に関する協議や看護技術試験の留意点の伝達、実務をしながらの教員間コミュニケーションが教員育成に繋がっている。</p> <p>・令和6年度実施の研修は次のとおり。 教員研修:「グーグルクラスルームでできること-学校現場におけるICT活用の実践-」「臨床判断の育成」(動画視聴) 人権研修:「障害のある看護学生が学ぶ環境づくり-当事者の声から問題になっていることを考える-」(動画視聴) 能力開発・向上研修(職員人材開発センター実施):各自ひとつ 学会、出版社セミナー等:各自ひとつ</p> <p>・臨床看護研修と授業研究の実施はできていない。</p>	<p>・能力開発や育成については県の人材育成・人事評価を活用する。</p> <p>・実務については口頭指導が多いが、チェックリスト等を作成し経験の見える化や達成レベルが自己判定できるようにしたい。</p> <p>・今後も職場内研修を企画していく他、看護教育の質の向上支援研修(県事業)も活用する。</p> <p>・教員が日々進化している医療・看護の現場から取り残されないよう新しい知識や技術等に触れる機会があるとよい。臨床看護研修のニーズを把握していく。</p> <p>・授業研究を年1回実施できるよう企画していきたい。</p>
⑧ 広報・地域活動	<p>・ホームページ、オープンキャンパス・学校見学会、進学ガイダンス等で広報し、本校カリキュラムの特徴や実習施設情報、学生の様子等を発信した。県中西部地区の高等学校訪問、西部地区での進学ガイダンスにも出向いた。</p> <p>・1年生1名が出身高校の卒業生講演会に参加、進路選択や看護学校での学習状況について話した。本校の魅力を発信する機会となった。</p> <p>・令和6年度に開催された「ねんりんピック」に1年生がボランティアとして参加し、クロークとして高齢者とコミュニケーションをとりながら役割を果たした。教員もボランティアとして協力した。</p> <p>・ボランティアや看護職能団体、県地域医療対策協議会等の地域社会活動を行った他、看護職員実習指導者養成講習会の講師となり県内の実習指導者養成に協力した。</p> <p>・学校所在地である江津地区内の8施設の所属長が定期的に集まり、課題や情報の協議・共有している。令和6年度は、障がいのある子どもたちの災害発生直後の避難について協議した。</p>	<p>・学校の魅力発信をぜひ続けてください。ホームページにおいて、行事や学校生活の様子を写真掲載し発信されている。</p> <p>・マンパワーが少なく、機動性をもって活動できる教員は限られるが、継続して取り組んでいく。</p> <p>・県広報が発信しているSNSも活用し学校について広報していく。</p> <p>・広報だけでなく、若い世代に看護職を選択してもらえるよう職能団体の活動にも協力していく(看護の魅力をPRするイベント等)。教員のボランティア活動への参加を促す。</p>